

No.10

# 進化論

Bible 1 Point Series



## 進化論とは

一八五九年にチャールズ・ダーウィンが著書「種の起源」の中で提唱した、生命の起源に関する学説で、人類の歴史全体から見ればつい最近になって出て来た一つの仮説です。

要約すれば「生命は物質から偶然に発生し、単純なものから、より複雑なものに進化していった」という考えです。

その考えの大前提は、「知性を備えた創造主は存在しない。だから進化の過程で一度でも外部から知的な働きかけがあつてはならない。必然はない。生命の発生も進化も、偶然の積み重ねである」というものです。これは進化論を正しく理解するにあたって大切な点です。





進化論の人間観

命を持った物質の塊

その結果

人間は酸素、炭素、窒素  
：などの合成物で、感情  
も命も体内での化学反  
応に過ぎない。命の尊さ  
が分からなくなる。

引き起こされる事

殺人 虐待  
性犯罪

進化論の人間観

偶然の産物

その結果

偶然発生したに過ぎな  
いので、生きる意味も  
目的もない。それらを  
探しても当然見つから  
ないし分からない。

引き起こされる事

多くの自殺者  
麻薬などで退廃した人生

進化論の人間観

弱肉強食で

勝ち残ってきた存在

その結果

自分が生き残るために  
は、自分より弱い他者を  
滅ぼしても構わない。

引き起こされる事

民族弾圧  
学歴社会（受験戦争）  
いじめ

もし進化論に立つならば、「愛」や「あわれみ」が不必要であること、弱い者を踏みにじることが悪と言えなくなること、人間は偶然の産物なので別に存在しなくてもよいということを、認めなくてはなりません。

道徳や平和は、進化論とは根本的に両立できません。命の尊さや人生の目標や生きがい、平和などは否定しなければならぬこととなります。

進化論は、人々に空しく目的のない人生を送らせ、様々な悲劇を引き起こし、善であるはずの「愛」や「あわれみ」を否定するのです。それでもなお、進化論が良いものであると思われませんか？





## ブレイクタイム・コラム①

### 進化論が生み出した悲劇

実際に進化論に立った人物が大きな悲劇を生み出した実例があります。

二十世紀半ば、ドイツのナチス党首アドルフ・ヒトラーは、ゲルマン民族こそが最も優れた民族であると考えました。障がい者は進化の妨げになると考え、多くの人を虐殺しました。

日本でもその影響を受けて、一九四〇年「国民優生法」が生まれ、「悪質な遺伝性疾患の素質をもつ」と見なされる者を国家の進化の妨げとなるとし、不妊手術をうながしました。その中には精神障がい者や視覚障害者、ハンセン病患者なども含まれたのです。この法律は、一九九六年まで、形を変えて存在し続けました。

一九九七年に、当時十四歳の男子中学生が小学生五人を殺傷した「神戸連続児童殺傷事件」という大きな事件がありました。犯人の少年は、エリート官僚の父親から進化論的思想を植え付けられていたことが知られています。

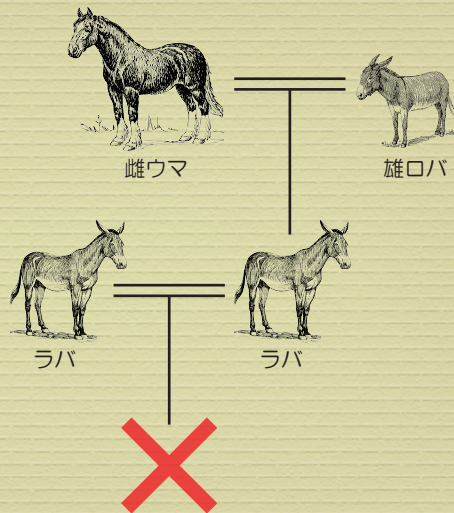


ナチスに虐殺された障がい者たちの遺品の数々

進化論の問題点① 種の壁は越えられない

生物には、種の壁があつて、この壁を越えることはできません。例えば、イヌとネコの間には仔は生まれず、「イヌ」「ネコ」という種の「壁」を越えることはできません。これは長い時間をかければどうにかなるのではなく、自然界に存在する確固とした法則です。

しかし、進化論は、魚類の子孫が両生類になり、両生類の子孫が爬虫類になるといふように、その種の壁をどんどん越えていく理論です。進化論は、生物界の中にはつきりと存在する大原則を、完全に無視しているのです。



雄ロバと雌ウマの間にはラバが生まれ  
ます。しかし、ラバには生殖能力がな  
いので、新しい種ではありません。

種類ごとに創造された



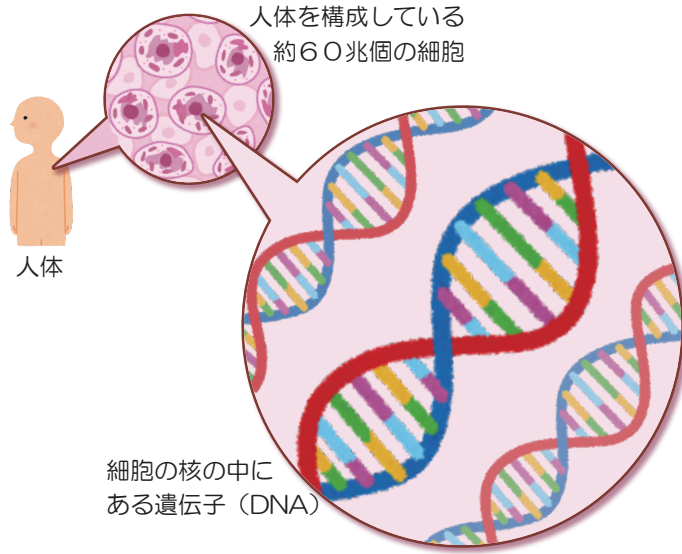
聖書の一番初めにあたる創世記には、世界が創造された時のことが記されています。そこに何度も念を押すように「種類ごとに」という言葉が書かれています。これは種の壁の存在を示している、重要なキーワードです。

神が「種類ごとに」生物を造られたので、生物が種を越えることは絶対ありません。もしそうでなければ、イヌとネコが混ざり、キツネとタヌキが混ざり、最終的には全ての動物が混ざり合って、自然界は大混乱するでしょう。

しかし、実際は種の壁によって、イヌはイヌ、ネコはネコとして存在し、生物の秩序が保たれています。まさに神の知恵です。







偶然や突然ではなく、全能の神がご自身の意思をもって「はじめに」すべてのものを造られました。もちろん、このことの証拠もあります。

人間の体の細胞の中には、遺伝子(DNA)が存在します。長さは二メートル、太さは五十分の一ミリメートルで、はしごをねじったような、二重らせん構造を持っています。その中に、三十億文字(三十年分の新聞に使用される文字数)が秩序正しく並んだ、人体の設計図が存在するのです。

設計図があるという事は、知性と意思を持った設計者がいるという事です。神こそが、その設計者であり創造者です。

進化論の問題点 ③ 中間種が存在しない

もし仮に進化論が正しいとすれば、ある種とある種の中間種が必ず存在するはずです。

例えば、進化論では、ネズミがコウモリに進化したと主張します。ではその中間種はどんな生物でしょうか？羽に進化しきれていない腕は滑空もできず、すばやく走り回ることもできません。徐々に退化していく脚はさぞかし不便でしょう。進化論が主張する中間種は、生存競争に打ち勝てないような生物でしかあり得ません。そもそも中間種の化石は全く発掘されていません。すなわち、そのような生物は存在しなかったというのが結論です。進化論を裏付ける証拠が全くないのです。

「始祖鳥」は化石の特徴(歯、かぎ爪)から爬虫類が鳥類に進化した中間種と主張されています。しかし、現存する鳥類の中にも同じような特徴を持つものがあります。ツメバケイはかぎ爪を持っていてひなはそれを使って木登りもできます。またカワアイサという水鳥のくちばしには歯状の突起がずらりと並んでいます。ですから、始祖鳥の化石が進化の証拠であるとは結論できません。



カワアイサのくちばし



ツメバケイの親子



始祖鳥の化石





創世記の一章に、神が造られた世界が「見よ、それは非常に良かった。」と言われるものであったと記されています。確かに、動物や植物の仕組みは、驚くべきものです。バケツランはミドリシタバチが好む匂いを出して、このハチをおびき寄せます。花の表面はすべりやすくなっています、ハチはバケツ状の部分に落ちてしまいます。このバケツの中の分泌液ではねが濡れたハチは、飛び上がることができずにはい上がるしかなく、壁をよじ登りません。結果、花の出口で雄しべと雌しべに必然的に触れることになり、背中には花粉が付着するのです。そして、再び別の花を訪れた時に受粉するという仕組みになっています。まさにこの世界は、神の知恵の御業で満ち満ちています。

進化論の基盤は何でしょうか？それは「神はいない。いたとしても自分とは関係ない。関係して欲しくない。」という無神論です。

「彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。」

——ローマ一章二節

そして、無神論の出所は悪魔なのです。悪魔は昔からの嘘つきであり、当然人間の幸せを願ってなどいません。むしろ、神を憎み、神に造られた人間を滅ぼして、地獄に追いやろうとしているのです。進化論は、あなたから生きる意味を奪い、命の価値を失わせ、本当の幸せを破壊し、永遠の天国から遠ざけるのです。

進化論

無神論



## ブレイクタイム・コラム②

一人の進化論者が、ある牧師に対して、提案をしました。

「進化論が正しいのか、創造論が正しいのか、討論会をひらきませんか？」

彼は、当然、クリスチャンを言い負かし、進化論が正しいことを示せると思っていたのです。牧師の方はとていつと、単なる議論は無駄だとわかっていましたが、あえてこう答えました。

「良いですね」

彼と一緒にいた他のクリスチャンは意外な返答に驚きます。しかし、彼はこう続けたのです。

「ごうじましょう。あなたは、神を捨てて進化論を信じた結果、酒に溺れ、暴力をふるい、妻をしいたげる、墮落した人生から救われた人を二人連れてきてください。私の方は神を信じた結果、生きる意味を知り、本当の幸いを得て、永遠の救いをも得た人を百人集めます。」

彼と一緒にいたクリスチャンもこのように言いました。

「私にも参加させてください。私の教会から四十人は参加できると思います。」

牧師は、最後にこう問いかけました。

「十分に人は集まるそうですね。さて、あなたの方はどうですか？」

そう言われた彼は、やっつけられないとばかりに、手を振って去っていききました。



## 人間を造られた目的は？

聖書は、唯一の神が全てのものを造られたと語っています。神は最初から魚を魚として、サルをサルとして、人間を人間として造られたのです。聖書を見れば、神が人間を造られた目的がわかります。

①「神は人をご自身のかたちとして創造された。」（創世記一章二七節）  
神は人間に霊と魂を与え、知性・感情・意志を与えました。  
それは、神の愛を知って、神を喜ぶためです。

②「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。」  
（詩篇十九篇一節）  
人間が神のご栄光を見て、神を賛美し、神のご計画に従って生き、  
ますます神のご栄光を現すことが、人間が造られた目的であり  
人間にとっての幸せです。



神のもとに立ち返ってください

あなたは、神によっていのちを与えられ、神から愛されるために生かされているのです。もし、あなたが神から離れて生きるならば、その人生は滅びです。空しい人生を送り、死に至り、死後に地獄で罪のさばきを神から受けなければならないのです。

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また『何の喜びもない』と言う年月が近づく前に。」

——伝道者十二章一節

神は、確かにご存在されます。あなたを滅ぼす進化論を捨てて、神に立ち返り、イエス・キリストを信じてください。永遠のいのち、永遠の幸いは神のもとにあります。



## 聖書ワンポイントシリーズ

1. 神
2. 聖書
3. イエス・キリスト
4. 救い
5. 罪
6. 裁き
7. 十字架
8. 復活
9. 信仰
10. 進化論
11. 偶像
12. 異端